音楽　実践事例１

学び合いの中で，音楽の楽しさを感じながら想像力を広げ表現する子ども

― 小学１年「行進の様子を思い浮かべて体を動かそう　～トルコ行進曲の鑑賞～」の実践から ―

１　授業の構想

(1) 子どものとらえについて

低学年の子どもたちは，生活の多くの場面で音楽を楽しみ，感じ，表現している。自然と歌を口ずさみ，音楽に合わせて体を動かすことが大好きである。本学級の子どもたちも，給食の時間にお昼の放送で音楽が流れると，その歌を聴いて一緒に歌い出したり，知らない曲でも曲に合わせて体を揺らしたりする姿がよく見られる。このように，生活の中に自然と音楽を取り入れ，楽しんでいる。

校歌を覚える学習では，難しい歌詞もしっかり覚え，すぐに歌えるようになった。その後は，授業が始まると「校歌を歌いたい」とか，一度歌った後に「もう一回歌いたい」という声がよく聞かれ，子どもたちの校歌を歌いたいという気持ちの溢れる姿が数多く見られた。

リズム遊びでは，教師のリズムを真似たり，子どもの中から「まねっこ隊長」としてリーダーを出して，みんなで真似たりする活動も行っている。リズムの作り方は，「４拍のリズム」という指示だけであったが，子どもたちは，教師や友だちのリズムを覚えて参考にしたり，手拍子だけではなく，体をたたいたり，足踏みをしたりするなど，自分たちで工夫をしながら様々なリズムを表現することができている。「まねっこ隊長」になりたい子どもが多くなってきており，最初は恥ずかしそうにしながらも，少しずつ人前で表現することを楽しむことができつつある。

鑑賞の授業では，「聖者の行進」と「たぬきのたいこ」という対照的な曲を聴き，曲を聴いて感じたことを発表する時間と曲に合わせて体を動かす時間を設け，よさや違いを見つけていく学習を行っている。感想を発表すると「楽しくなった」「わくわくしたよ」という感情面の感想と，「トランペットが聴こえた」「ゆっくりになるところがあったよ」という音楽を形づくっている要素に関わる感想が出た。このように，すぐに感じたことを言葉にし表現できる子どもが多くいる一方で，言葉では思うように表現できない子どもたちもいる。低学年の子どもたちは，感じたことを体で表現することは大好きであり，自然にできている。こうした体を使った豊かな表現を「強弱」や「速度」などの音楽を形づくっている要素なども含めて考え，伝え，学び合うために，言葉での表現もより豊かにできるようにしていきたいと感じている。

(2) 本題材の目標や内容と音楽科で考える思考力・判断力・表現力の育成との関わりについて

本題材では，鑑賞の学習を通して，想像力を広げ，のびのびと表現できる子どもを育てたいと考えている。低学年の子どもたちは，歌ったり，体を動かしたりすることによって表現することが大好きであり，進んで行うことができる。こうした表現活動をより豊かなものにするために，感じたことや考えたことを体を動かすこと，そして言葉や絵を通して表現し，学び合っていくことが音楽の授業として大切であると考えている。

鑑賞が表現活動と大きく異なるところは，曲を聴くなどして感じたこと，気づいたことを言葉にし，伝えるということが大切になる点である。そのためには，まず「感じる心」を育てることが大切である。子どもたちは，日々多くのことを無意識のうちに感じながら生活している。本来，だれもがもっている「感じる心」を低学年という早い段階において，鑑賞の授業の経験を積むことで育てていきたい。さらに，表現の手段としての音楽用語を知ることも感じたことを他者に伝えるためには重要となってくる。しかし，ただ言葉を教えていくだけでなく，実際に歌ったり，演奏したりする活動を通して，言葉と感情，情景などが結びつかなければならない。本題材では，音楽を形づくっている要素についても，無理なく子どもたちに身につけていくことができるように，子どもから出た感想やつぶやきを拾い，つなげていくようにしていきたい。こうして，聴いた音楽を味わい，感想などを言葉でつなぎ合って理解を深めていく鑑賞の授業を重ね，この題材の中でのびのびと表現する力をつけていきたいと考えている。そして，身についた表現力を鑑賞だけでなく，歌唱・器楽の学習においても生かしていくことができるようにしたい。

(3) 11年間で育てる思考力・判断力・表現力の育成に関する学び合う場面の構想について

本題材では，思考力・判断力・表現力を育てるための学び合いの場面として，言葉と絵によって気づいたこと，感じたことを伝える時間をまず設けた。自分の考えたことを全体の場で伝えることは，学び合いの第一段階である。そして，全体の場で意見を出し合い，自分の感じたこと，気づいたことと，他の人との内容を比べて，同じ点や違う点があることを知り，より理解を深めていく。それをまた，自分に戻し，もう一度自分の考えと向き合うことが学び合う上で重要ではないかと考える。

まず，伝える時間として設けたのは，「曲の感想を発表する」場面である。曲の感想として，同じことを感じ取る子どもが複数いるであろう。しかし，感じることがおおよそ同じであっても，それを表現する言葉は同じになるとは限らない。そのような場面を通して，表現の仕方には多様なものがあり，使う言葉によって，より自分の表したい気持ちに近づいたり，友だちへの伝わり方が変化したりすることに気づいてほしいと考えている。

一度感想を発表した後は，焦点を絞って感じたことや気づいたことを発表する時間をとる。具体的には，最初の感想発表の中で，子どもたちから多く出た音楽を形づくっている要素の中から１つ選び，焦点を絞ることにする。今までの学習の様子から，音の「強弱」についての感想が多く出るのではないかと予想している。このような段階をとらえたはたらきかけをすることにより，学び合いが深まるのではないかと考えている。

言葉による学び合いの後は，絵を描き，紹介し合うことで学び合いの場を設けることにする。低学年の子どもたちの発達段階を考慮し，言葉だけでは表現しにくい具体的で微妙な部分を「絵」を手がかりに伝え合い，学び合うことができるのではないだろうか。ここでは「行進の様子」を思い浮かべ，絵に表す活動をする。言葉とは違う様々な子どもたちの感じたイメージが表現されるのではないかと期待している。

最後には，もう一度曲に合わせて体を動かす活動を取り入れる。おそらく，言葉や絵により表現された多くの気づきの中から自分に合うイメージを判断して，初発の体の動きと，そこでの子どもたちの変化を見ることによって，学び合いの場がよいものであったのかどうかを確かめることができると考える。

本題材を通した充実した学び合いの中で，子どもたちが夢中になり，楽しく表現力を身につけることができるようにしていきたい。

２　展開計画

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は，学級全体の学び合いの場面）
1	いろいろな曲に合わせて体を動かそう	1	・既習曲（かたつむり，うみ，森のくまさん）に合わせて，体を動かす。
2	トルコ行進曲を聴いて体を動かしてみよう	2	◇トルコ行進曲を聴いて，感じたことや気づいたことを発表し，学級全体で伝え合う。 ◇強弱に注目して，もう一度聴き，思い浮かべた行進の様子を発表することで，お互いの感じたことを共有する。 ・曲に合わせて体を動かす。
		3・4	・思い浮かべた行進の様子を絵にして表現する。 ◇描いた絵の紹介をすることで，感じたことを伝え合い，様々な感じ方があることを知る。 ・曲に合わせて体を動かす。

3　授業の実際

(1) 曲に合わせて体を動かしてみよう（第１時）

トルコ行進曲の鑑賞に入る前に，既習曲に合わせて体を動かす活動を取り入れた。この時，「かたつむり」「うみ」「森のくまさん」の曲を順番にオルガンで弾き，子どもたちには「曲に合った動きで踊ってみよう」という声がけをした。「かたつむり」では，ゆっくり歩いてみたり，かたつむりの真似をして床をニョロニョロと動いてみたりする子どもが多く見られた。「うみ」では，手を広げ波を表現しながら踊ったり，友だちと手をつなぎ一緒に大きな海を表現したりしていた。「森のくまさん」では，スキップをしながら踊ったり，くまの真似をしながら踊ったりする姿があった。子どもたちは，しっかりと歌詞の意味を理解し，曲に合った動きをしていた。

次に，曲の速さや音の強弱を変えて弾いてみた。速いテンポで弾いてみたところ，「かたつむり」では，動きのとても速いかたつむりを表したり，スキップをしたりする子どももいた。「うみ」では，強弱を変えながら弾いてみたところ，大きく弾くと大きな波，小さく弾くと小さな波を表現していた。「森のくまさん」では，大きく弾くと強いくまさん，小さく弾くと優しいくまさんを表現した。他にも様々な表現をする子どもたちがいたが，多くの子どもたちが，歌詞の意味だけではなく，曲の速さや音の強弱の変化を感じ取りながら，一人ひとりの「曲に合った動き」をしていた。つまり，子どもたちは音楽を形づくっている要素を感じながら，それに合わせて体を使った表現を自然にすることができていた。そして，途中で子どもたちを集め，どんな動きをしたのかをみんなの前で発表する時間を設けた。それぞれが自分の動きを紹介していったところ，「そのおどりは〇〇ちゃんもしていたよ。」という発言があった。自分の考えに没頭するだけではなく，友だちの様子にも興味・関心をもって目を向け，自分の動きを工夫しようとしている様子も見ることができた。これを基盤として，最も反応のあった音の「強弱」に焦点をあてて，学び合う場面を再度設定し授業を進めていくことにした。

(2) 行進の様子を思い浮かべながら聴いてみよう（第２時）

①トルコ行進曲を聴いてみる

鑑賞の授業は以前も行っており，様々なことに気づきながら聴くことができていたことから，どこに注目して聴くと良いかなど，何も示さずに一度聴いてみることにした。すると，体を動かしたり，手拍子をしたり，指揮をしたりと，何を言わなくても自然と体が動いていた。一方，目を閉じてじっと静かに聴く子どももいた。初めて曲を聴いたときの感想は次のようなものがあった。

- はくりょくがあった。
- さいしょがおもしろかった。
- タンブリンやバイオリンの音がきこえたよ。
- つよいところがあって，びっくりしました。
- きゅうにおんがくが小さくなってた。
- さいしょは小さいけど，だんだん大きくなっていった。

子どもたちは，音の強弱，使われている楽器などに気づいて感想を発表していた。なかでも，音の強弱についての感想が一番多く出ており，子どもたちにとって感じやすい要素の一つであることが分かった。

ここでは，学級全体の学び合いとして，みんなの前で感想を発表することを位置づけた。子どもの発言を教師が板書し，より友だちの考えが伝わるようにした。既存の曲を聴き，感じたことを発表する活動の経験は少ないため，友だちがどんなことを感じているのかを知ることが，１年生の子どもたちにとっては大切な学び合いとなった。感じたことを言葉にすることが難しい子どももいるが，友だちの感想を聞くことで，「おもしろかった」「びっくりした」など，普段から使っている言葉をそのまま使って話したらよいということや，曲全体を大きくとらえて発表するだけではなく，「さいしょは」「つよいところ」など一部分に注目したり，「強弱」「音色」「楽器」など，特徴的な部分に絞ったりして感想を発表したらよいということに気づくことができた。

②音の強弱に注目して，もう一度曲を聴く

初めて曲を聴いた感想の中から，「さいしょは小さいけど，だんだん大きくなっていった。」と気づいた子どもの感想を取り上げ，２回目は，音が強くなったり弱くなったりしているかどうかに注目して，曲の一部を聴く活動をした。この時，学級全員が強弱に気づくことができた。そこで，教師から「音が強くなったり弱くなったりするときの行進の様子はどんなかな」という問いかけをし，再度，曲を聴いてみた。その時の感想は次のようなものがあった。

- はげしいところは，たたかっているみたいだった。
- 音が小さくなったところは，行進の人が少ないと思うよ。
- 音が小さくなったところは，行進がかえっていったみたいだったよ。

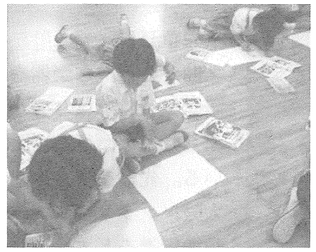
しかし，これ以上の感想は特に出ず，どちらかといえば，子どもたちは音が強くなったり弱くなったりするときの行進の様子を思い浮かべて言葉で発表することは難しかったようである。つまり，目に見えず，歌詞のない曲を，意味をとらえたり言葉のみで説明したりすることは，小学１年生の子どもたちにとっては，かえって活動を停止させてしまいかねないと思われた。

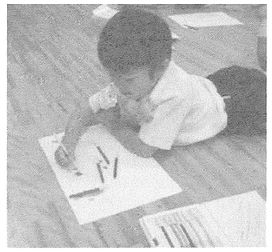
この時間の最後に曲に合わせて体を動かすことにした。楽器を演奏する真似をしたり，兵隊の真似をしたりしながら踊っている子どもが見られたが，ほとんどの子どもはリズムに合わせてスキップをしたり，好きなポーズを取りながら歩いたりするなどの子どもが多く見られた。楽しくのびのびと体を動かしていたが，トルコ行進曲の内容を意識した動きに全体的にはなりえなかった。なかには，体を動かすことがなかなかできず，まわりの様子をうかがっている子どもも見られた。

(3) 行進の様子を思い浮かべて，絵を描こう（第３時）

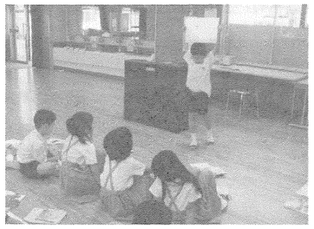
１年生の発達段階や学習経験を考え，鑑賞での言葉の表現の難しさを予想していたので，この時間では，思い浮かべたことを言葉ではなく，絵で表現する活動を行った。トルコの国の場所や行進，軍楽隊についてのイメージを確認してから，絵を描き始めることにした。

どんどん描き始める子どもやじっくり様子を思い浮かべながら考えている子どもなど，様々であったが，ほとんどの子どもが楽しそうに絵を描いていた。中にはストーリーを考えて描いている子どももいた。描いている途中には，「先生！もう１回曲を聴きたい！」と，しっかり曲を聴いてイメージをふくらませようとする姿も見られた。



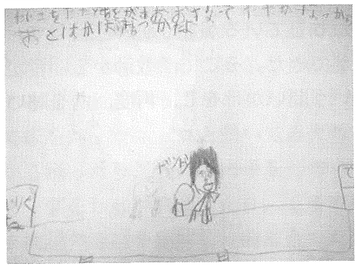


１時間かけて，しっかり絵を描く活動をした後で，自分の描いた絵の紹介をみんなの前でする時間を設けた。これは，本題材２回目の学級全体での学び合いの時間となる。言葉では，なかなか表現しきれなかった部分を，絵という手がかりをもとに，どんどん友だちに紹介をする姿が見られた。教師から，「これは，何をイメージして描いたの。」など，子どもの考えがよりみんなに伝わるような声がけも行った。発表を聞いている子どもたちも，イメージを具現化したものを見ることができ，友だちがどのようなことを思い浮かべて描いたのかということを理解しやすくなったようで，絵に対して「それは何？」「演奏しているところがおもしろいね」「かわいい」など，多くの反応を示していた。絵の紹介を数人ほど終えたところで，「ちょっと絵をふやしていいですか？」「もう少し描きたくなった」と，つぶやく子どもがいたため，再度，絵を描く時間を少しだけとることにした。ほとんど描けなかった子どもも，友だちの真似をしたり，付け加えたりしながらイメージを広げて絵を描くことができていた。このことからも，お互いの絵を紹介することは，各自のイメージをより広げることにつながったことが分かる。



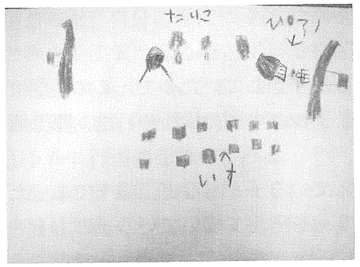
〈自分の絵を紹介しているところ〉

子どもたちの描いた絵（一部）

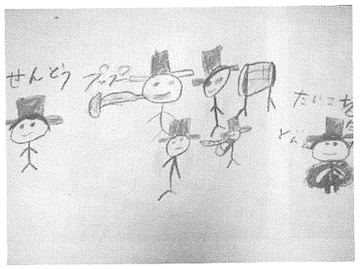


（児童Ａ）
真ん中に太鼓を演奏しながら行進をしている人物を一人描き，行進が左にある入り口から入場し，右にあるの出口から退場する様子を表している。絵の上の方には言葉で「たいこをたたくとおとがおおきくなって，たたかなかったらおとはかわらなかったよ」と書いており，音の強弱は，軍楽隊が太鼓をたたいている時とたたいていない時で変化しているのだとイメージし描いている。

（児童Ｂ）
この絵も，行進をしている人物は一人であるが，地面ではなく川に架かる橋の上を行進している様子を思い浮かべ描いている。人物には「トルコちゃん」という名前をつけており，トルコちゃんが楽しく太鼓を演奏しながら行進する様子を音符を描くことで表現している。音の強弱についての意識はあまりなかったが，曲から楽しくイメージを広げ描くことができている。



（児童Ｃ）
絵の上方はステージが描かれており，ステージの前には観客の座る椅子も準備されている。コンサートホールで演奏しているイメージをもって描いていた。軍楽隊として，太鼓とピアノを演奏する人物を描いており，この行進は，右にある入り口から左にある出口へ進んでいく。音の強弱から，軍楽隊が入ってくると音が大きくなり，だんだん音が小さくなるときは，出口から出て行く様子を思い浮かべて描いている。



（児童Ｄ）
曲から様々な楽器を聴き取り描いている。トルコの軍楽隊を実際に見たことはないが，行進をしている人物には，同じ帽子をかぶらせたり，行進らしく，左には先頭で歩く人物を描いたりしている。先頭を歩く人物の後ろには，トランペット，シンバル，大太鼓，クラリネット，最後に，小太鼓を演奏する人物を描き，複数で行進をしている様子を思い浮かべ表現している。

学習の最後に，もう一度曲に合わせて体を動かす活動をした。すると，複数で列を作り行進をする子どもたちや楽器を演奏する真似をしている子どもがいた。また，音の強弱に合わせて教室の出口から一度は出て戻ってくる子どもなど，ストーリー性をもった連続的で多様な動きが生み出され，明らかに１回目の表現方法とは変化の見られる子どもが増えていた。そして，今回はすべての子どもが体を動かすことができた。ふりかえりでは「はじめは行進の様子がよく分からなかったけど，みんなの絵を見たら，イメージしやすくなったよ。」「みんなで考えるのが楽しかったよ。」という感想があった。そして「まだ踊りたーい。」「もう一回やりたい」という声が多く出たことからも，イメージをもちながら楽しくのびのびと体を動かすことができたことが分かる。

4　成果と課題

(1) 学び合いの場面構成について

この実践では，思考力・判断力・表現力を育てる学び合いの場面として，発達段階などを考慮し，個で考えたことを学級全体に広げ，また個に戻すという形をとった。ペアでの活動やグループ活動も視野に入れていたが，入学して間もない１年生にとっては，まず自分のイメージをしっかりともつことができたという点で，今回の学級全体で教師とかかわり合いながらの形が適切であったと考えている。そして，学級全体で曲を聴いた感想を発表して終わるのではなく，全体での学び合いで気づいたことや深まったことをもとに，その後もう一度自分と向き合い，感じたり考えたりすることで，曲に対する想像力が広がっている子どもが多くいた。

(2) 絵を描く活動を取り入れたことについて

言葉だけでなく，思い浮かべたことを絵に描いて紹介するという活動を取り入れたことで，生き生きと友だちに自分の思いを表現することができた。自分の感じたイメージをもとに絵を描きはじめるが，描いているうちに新しいイメージがどんどん広がるという点でも，まだ語彙数もそれほど多くなく，音楽用語もほとんど知らない子どもたちにとっては，学び合いを深める上で，とても有効な手立てであった。絵を描く際に，「感じたこと」ではなく，「音が大きくなったり小さくなったりしたときの行進の様子」を絵にするように焦点を絞って伝えた。このようにイメージすることの焦点を絞ることで，より表現しやすくすることができた。また，絵にすることで，教師が子どもの様子をしっかりと，とらえることができた。２，３人全く描けていない子どももいたが，描くことができないという子どもの状態を把握することができ，声がけをしたり，曲の中でイメージしやすい部分を何度か流したりするなどの支援をすることもできた。

絵を描く活動は，話し合う前に，一つの手立てとして効果的であると感じた。また，描きながらイメージが広がっていくため，しっかりと時間をとると充実した活動になると感じた。題材計画を立てる際に注意する必要がある。

(3) 音の強弱に焦点を絞ったことについて

行進の様子を思い浮かべる際に，曲の感想で最も多かった，強弱に焦点を絞り，その時の行進の様子を思い浮かべてみるようにしたことは，１曲の中で，特にどの部分について考えればよいのかということが，子どもたちに分かりやすく伝わり，感想をもったり，イメージしたりしやすくなった。また，「おもしろかった」「たのしかった」という感想だけではなく，より具体的なイメージをもつための手段として有効であった。また，だれもが同じ内容について考えることができ，学び合いにおけるめあてをはっきりと共有することができた。しかし，鑑賞の学習の経験があまりない小学１年生の段階では，焦点を絞ったからといって，感じたことが言葉ですぐに表現しやすくなる子どもたちだけではないということを，もう少し配慮しなければならないと感じた。

この実践では，思考力・判断力・表現力を育てることを視点に，鑑賞の授業のあり方について考え，授業を行った。感じたことを言葉にして表現することはすぐには難しく，体を動かす活動や絵などの表現を豊かに行うことを基盤とし，本来の音楽のよさを子どもたちに伝えていきたい。あわてることなく多くの経験を積むことで豊かな想像力を育んでいき，その上で音楽用語や音楽を形づくっている要素についての言葉などを知ることが大切であると感じた。音楽のよさに浸り，そこから言葉や体を使ったり，絵を描いたりするなどの表現方法を知り，それらを手がかりとすることで，表現の幅も広がってくる。こうして，鑑賞の授業を重ねていくことで，曲の細部にわたって気づくことができたり，多様な感じ方ができるようになったりすることにつながり，音楽を聴く楽しさを体感できると考える。さらには，歌唱や器楽での表現活動においても，鑑賞の学習での経験を生かし，多くの音楽を形づくっている要素を感じる手立てになると考える。

（文責　上代　美樹）